



きままに川柳

お題「福」

お便り日和

テーマ「ハッピーバレンタイン」

2月14日のほろ苦い思い出

夢美(肥田町)

バレンタインデーにチョココレートを贈ることが本格的に一般の人に広まったのは70年代後半らしく、私の若い頃は丁度過渡期だったようだ。女性から男性にプレゼントをする事が流行り出していったものの、チョココレートでは無くネクタイとか手作り品だったように思う。流行に遅れないようにと私はクロスステッチ刺しゅうのクッションを苦心して作り、離れた課の人に、勇気を出して手渡したものの、その後、使ってくださいだったかは定かではない。

恥ずかしバレンタイン

ネズミー(土岐津町)

中学生の頃、クラスに仲の良い女の子がいました。当時から妄想癖があった私は「あの娘は僕の事が好きなんじゃないか」「きつとチョコをくれる」と。「お返し品切れになるかも」と先走り、その娘の好きなキャラクターが描かれた鏡を2月14日よりも前に購入しました。案の定(?)、その娘からチョコはもらえず、鏡は私の妹へのお返しにびっくりしていましたが…。ちよつとストーカーっぽくて恥ずかしい思い出です。

ほろ苦いバレンタインデー

TUKIKO(泉町)

中学2年のこの日、まだ学校が土曜日授業のあった午後。部活の友達を誘うため隣の教室に入った。たまたま腰が机に触れ、ガタツと移動したら、引き出しからどさつとチョコレートが…。ピンのリボンやハート型の赤箱、カラフルなものばかり、20個はあったでしょう。当時学校へ持参禁止令が出ていなかったこともあって、自由な時代。ちよつと気になる子の席と分かるにはそんなに時間はかから

ず、その数を見ただけで、すっかり「きになる」気持ちには冷めました。あれから彼はなぜか独身で、今年も部下や同僚の女子達から、袋が要るくらいその日を迎えるだろうか。って、2・14のちよつと切ない出来事でした。



- 福耳と言われいまだに平社員 小阪千枝子
- 福袋服が合わぬと膨れ顔 夏みやこ
- 恵方寿司福を本気で呼んで来い マスお
- 福は内我が家はいつも通過点 月丘夢子
- 「福笑い」バアチャンみたいと孫囃う かずゑ
- 健康で至福の春を迎えられ ラン
- 手の平に愛の字描き福握る 足立昌代
- 一族の福が舞い込む春の宴 丹羽つね代

3月1日号の投稿募集

お便りテーマは「引越しの思い出」です。住み慣れたまちを離れる寂しさや、新しい土地での出会いのことなど200字以内(タイトル別)でお寄せください。

川柳のお題は「花粉症」です。
(1人1句)

締め切りは2月18日(水)です。

■応募・問い合わせ
住所・氏名またはペンネームを明記し、秘書広報課広報広聴係へ。
〒509-5192(住所不要)
☎1111(内線185) / FAX 7763
✉koho@city.toki.lg.jp
※応募多数の場合は採用されない場合があります。また、お便りについては、採用に当たり趣旨を変えない程度で表現を変更する場合がありますので、ご了承ください。掲載の際に投稿者へのご連絡は行っていません。